

7 JULY		8 AUGUST	9 SEPTEMBER
01 TUE		01 FRI	01 MON
02 WED		02 SAT	02 TUE
03 THU		03 SUN ■第2回オープンキャンパス	03 WED
04 FRI		04 MON ■夏季休暇開始(9月19日まで)	04 THU
05 SAT		05 TUE	05 FRI
06 SUN		06 WED	06 SAT
07 MON		07 THU	07 SUN
08 TUE		08 FRI	08 MON
09 WED		09 SAT	09 TUE
10 THU		10 SUN	10 WED
11 FRI		11 MON	11 THU
12 SAT		12 TUE	12 FRI
13 SUN	■AO試験・前期エントリー受付開始(8月1日まで)	13 WED	■指定校推薦(専門高校対象)
14 MON	※実施学部/工学部・芸術学部・情報学部・生物生命学部	14 THU	前期願書受付開始(9月29日まで)
15 TUE		15 FRI	※実施学部/工学部・情報学部・生物生命学部
16 WED		16 SAT	■特別選抜試験願書受付開始(9月29日まで)
17 THU		17 SUN	※実施学部/芸術学部
18 FRI		18 MON	
19 SAT		19 TUE	
20 SUN		20 WED	
21 MON 海の日		21 THU	
22 TUE		22 FRI	13 SAT
23 WED		23 SAT	14 SUN
24 THU	■前期定期試験開始(8月1日まで)	24 SUN ■第3回オープンキャンパス	15 MON 敬老の日
	※実施学部/工学部・芸術学部・情報学部・生物生命学部	25 MON	16 TUE
25 FRI		26 TUE	17 WED ■AO試験・前期 試験日
26 SAT		27 WED	18 THU
27 SUN		28 THU	19 FRI ■夏季休暇終了
28 MON	■前期定期試験開始(8月8日まで)	29 FRI	20 SAT
	※実施学部/薬学部	30 SAT	21 SUN
29 TUE		31 SUN	22 MON ■オリエンテーション
30 WED			23 TUE 秋分の日
31 THU			24 WED ■AO試験・前期 合格発表
			■授業開始
			25 THU
			26 FRI
			27 SAT
			28 SUN
			29 MON
			30 TUE

OPEN CAMPUS

オープンキャンパスに

見て・聞いて・体験する

崇城大学生という自分の未来!!

模擬授業や模擬実験、
教員や在学生への質問タイムなど、
崇城がどんな大学なのか、
しっかりわかるイベントがいっぱい。
入試攻略アドバイスもあるオープンキャンパスで、
自分の未来をイメージしよう!!

<開催日時>
第2回 8月02日[土] 10:00~16:00
第3回 8月24日[日] 10:00~16:00
第4回 11月22日[土] (予定)

お問合せは入試課まで
TEL.096-326-6810
nyushi@ofc.sojo-u.ac.jp



大学の見学は
いつでもOK!!

崇城大学

SOJO UNIVERSITY

- 工 学 部 機械工学科/ナノサイエンス学科/
エコデザイン学科/建築学科/
宇宙航空システム工学科<総合課程>
<専修課程航空整備士養成コース><専修課程パイロット養成コース>
- 芸 術 学 部 美術学科/デザイン学科
- 情 報 学 部 電子情報ネットワーク学科/ソフトウェアサイエンス学科/
コンピュータシステムテクノロジー学科
- 生物生命学部 応用微生物工学科/応用生命科学学科
- 薬 学 部 薬学科
- 大学院工学研究科
<博士後期課程>エネルギーエレクトロニクス専攻/
機械システム工学専攻/応用化学専攻/環境社会工学専攻/
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻/
<修士課程>電気・電子工学専攻/機械工学専攻/応用化学専攻/
建設システム開発工学専攻/宇宙航空システム工学専攻
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻
- 大学院芸術研究科
<博士後期課程>芸術学専攻
<修士課程>美術専攻/デザイン専攻

<http://www.sojo-u.ac.jp/>

SOJO 検 索

〒860-0082 熊本市池田4-22-1
TEL.096-326-3111 (代表) FAX.096-326-3000
広報誌「かくふう」第48号 発行/2008年6月
崇城大学広報誌編集委員会・広報課 (koho@ofc.sojo-u.ac.jp)

SOJO UNIVERSITY

INFORMATION MAGAZINE



崇城大学 ● 広報誌
かくふう

VOL.48
Summer
2008

巻頭
特集 The ITF~情報技術の未来



2009年度 入学試験情報

(2008年中に実施される試験・2009年1月以降実施の試験は次号より紹介)

A O 試験	前期	実 施 学 部	■工学部 ■芸術学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		エントリー受付期間	07月14日[月]～08月01日[金]
		願 書 受 付 期 間	08月29日[金]～09月10日[水]
		試 験 日	09月17日[水]
		合 格 発 表	09月24日[水]
後 期	後 期	実 施 学 部	■工学部 ■芸術学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		エントリー受付期間	11月04日[火]～11月17日[月]
		願 書 受 付 期 間	11月28日[金]～12月05日[金]
		試 験 日	12月11日[木]
		合 格 発 表	12月17日[水]

特別選抜試験	実 施 学 部	■芸術学部
	願 書 受 付 期 間	09月12日[金]～09月29日[月]
	試 験 日	10月04日[土]
	合 格 発 表	10月08日[水]

指定校推薦試験	前期 専門高校	実 施 学 部	■工学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		願 書 受 付 期 間	09月12日[金]～09月29日[月]
		試 験 日	10月04日[土]
		合 格 発 表	10月08日[水]
	後期／全指定校	実 施 学 部	■工学部 ■芸術学部 ■情報学部 ■生物生命学部
後 期	後 期	願 書 受 付 期 間	10月20日[月]～10月31日[金]
		試 験 日	11月07日[金]
		合 格 発 表	11月14日[金]

推薦試験	普通 高校 専門 高校	実 施 学 部	■工学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		願 書 受 付 期 間	10月20日[月]～10月31日[金]
		試 験 日	11月07日[金]・11月08日[土]
		合 格 発 表	11月14日[金]
	一般・専願	実 施 学 部	一般 ■芸術学部 ■薬学部 専願 ■薬学部
一般・専願	一般・専願	願 書 受 付 期 間	10月20日[月]～10月31日[金]
		試 験 日	11月07日[金] 薬学部(専願) 11月08日[土] 芸術学部・薬学部(一般)
		合 格 発 表	11月14日[金] ※薬学部は11月18日[火]

自己推薦試験	前期	実 施 学 部	■工学部 ■情報学部 ■生物生命学部
		願 書 受 付 期 間	11月25日[火]～12月05日[金]
		試 験 日	12月10日[水]
		合 格 発 表	12月17日[水]

※宇宙航空システム工学科は総合課程のみ

<工学部 宇宙航空システム工学科 専修課程 航空整備士養成コース>

推薦試験	専 願	願 書 受 付 期 間	10月20日[月]～10月31日[金]
		試 験 日	11月08日[土]
		合 格 発 表	11月14日[金]

<工学部 宇宙航空システム工学科 専修課程 パイロット養成コース>

A O 試験	前期	エントリー受付期間	07月14日[月]～08月01日[金]
		願 書 受 付 期 間	08月29日[金]～09月10日[水]
		試 験 日	09月17日[水]
		合 格 発 表	09月24日[水]
	後 期	エントリー受付期間	11月04日[火]～11月17日[月]
後 期	後 期	願 書 受 付 期 間	11月28日[金]～12月5日[金]
		試 験 日	12月11日[木]
		合 格 発 表	12月17日[水]

推薦試験	一 般	願 書 受 付 期 間	10月20日[月]～10月31日[金]
		試 験 日	11月08日[土]
		合 格 発 表	11月14日[金]



■表紙アートは4月30日、TKU主催の熊本城本丸御殿落成記念「坂東玉三郎特別舞台公演」の舞台背景となった「藤」。本学芸術学部・美術学科と大学院芸術研究科の日本画コース生を中心に、洋画コースやデザイン学科の学生も加わり制作された作品です。熊本市民をはじめとする観客の心にふれた出来栄えはもとより、その制作過程から、関わった学生の全員が大きな充実感と喜びを得たと思われます。

CONTENTS

02 SPECIAL ARTICLE

The ITF 情報技術の未来

07 A LABORATORY REVIEW

薬学部 薬学科・医療薬学講座 薬物治療学教室
情報学部 コンピュータシステムテクノロジー学科・逸見研究室

09 LICENSE GUIDANCE

中学校・高等学校教諭一種免許
環境計量士

10 THE HISTORY OF A PROFESSOR

情報学部 ソフトウェアサイエンス学科・原尾政輝教授

11 NEWS

新任教員紹介
近未来新素材研究会 第7回 講演会
上岡教授と松本教授がナノメディシン専門書に共著
前田教授が薬学系国際誌に注目の論文を発表
渡邊教授が熊本地方裁判所の研究会で講演

13 TOPICS

坂東玉三郎公演「藤娘」の舞台背景を制作
山鹿まちづくり活動報告会を開催
ロボット研究会が競技会で決勝進出
在学生が自家用飛行機ライセンスを取得
くまもとアートポリスに入選
在学生が危険物取扱者(甲種) 資格を取得

14 SOJO as it is

学生支援センターを開設

15 ALUMNI

株式会社 同仁グローバル・矢方研志さん
東和環境科学株式会社・原弘之さん

16 INTERNATIONAL EXCHANGES

国際交流だより

CLUBS' ACTIVITY

テコンドー部
コンピュータ研究部

17 THIS IS MY FAVORITE BOOK

心響の一冊

18 LOCAL AREA CORPERATION

地域との連携

SPECIAL INFORMATION

高校生 未来づくりコンテスト

SOJO COLLEGE INFORMATION

崇城大学専門学校からのお知らせ



The Information Technology of the Future

情報技術の未来

QRIO (SDR-4XII) の基本構成



QRIO (SDR-4XII) の基本構成

Visual Sensors
Microphone
Speaker
Pitch Detection Sensor
3-Axis Acceleration/Angular Rate Sensors
Z (Yaw)
Gy (Pitch)
X (Roll)
Force Sensors (4 in total) & Acceleration Sensor

ソニー元副社長・中村末廣副学長に訊く

ロボットってなに？

なのですか…

本 学で情報学を学んだ
次世代型IT人材の多くは
ロボットの進化に関わるだろう

日経ビジネス人文庫『不可能を可能にした商品開発プロジェクト〜ソニーの遺伝子』という勝見明氏の著作の中に「中村末廣が蒔いた“創”のタネ」という項がある。これは本学・中村末廣副学長がソニーの副社長になる直前、20億円の研究費を独断で投じ、社内でも秘密裏に進めさせた有機ELディスプレイの開発秘話を紹介する項である。この有機ELディスプレイは、ソニーに再躍進をもたらした技術のひとつであり、その開発の道を開いた中村末廣副学長の独断を同項では「やるなら一気にやれと、いかにも“電光石火の男”らしい判断だった」と評している。そんな“電光石火の男”が副学長2年目を迎え、陣頭指揮をとったのが情報学部再編。現在の3学科を2009年度より「1学科4コース」に再編することが予定化されている今、その目的は「技術立国・日本の再興を促す次世代型IT人材の育成にある」という。同時に、輩出される次世代型IT人材の多くが「ロボットの進化に関わることになるだろう」と述べる中村末廣副学長。ロボットと情報技術の関係性に戸惑いを感じつつ、まずは「ロボットとは何なのか」を訊いてみた。

人 の“こうしたい”をICチップが
理解・判断して動かすクルマは
四輪走行ロボットである

ソニーが開発したロボット犬「AIBO」や人間型2足歩行ロボット「QRIO」のような生命体を感じさせるメカのみをイメージしてはならないようだ。ロボットは現在、一般的には「ある程度自律的に（すなわち状況を判断し）連続した自動作業を行う機械」と定義されており、中村末廣副学長においては「人間の指示（あるいは思い）を受けて人間のかわりに何かをするメカはすべてロボット」となる。その最たる例は自動車らしい。「かつてのクルマでは、アクセルとエンジンは紐（ひも）等で結ばれており、人は自分の力でバルブの開け閉めをしていた。しかし今のクルマのアクセルとエンジンを結んでいるのは電子ケーブル。人がアクセルを踏む力の強弱をもとにICチップが“速く走りたいのか・遅く走りたいのか”を瞬時に理解、その判断をエンジンにインフォームする（情報を伝える）ことでクルマは動いている。ブレーキやハンドルの操作も原理は同じ。クルマとは1台に130個以上搭載されている情報技術の結晶、ICチップが人の“こうしたい”を理解・判断して動かす四輪走行ロボットなのです」。

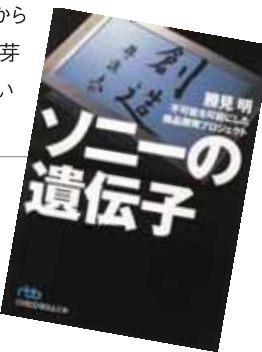
IT の革新がもたらすであろう
人の感情や生理的欲求の察知といった
ロボットの進化に“夢は尽きない”

「地球と太陽の距離の倍、約1億5000キロの遠隔地で状況を判断しながら惑星探索をする無人衛星『はやぶさ』。人の顔等から成人かどうかなどを認識、売る・売らないを判断する街角の自販機。ならべて語ることを“似つかわしくない”と感じるメカかもしれないが、これらもクルマと同様、人の“こうしたい”を理解・判断して動くロボットであり、その根幹を成しているのがITに他ならない」。このように述べる中村末廣副学長にとって、ITの革新がもたらすロボットの進化に“夢は尽きない”よう。「嬉しいや悲しい、楽しいや辛いといった感情。暑いや寒い、あるいは気持ちの良し悪しや排尿等に関する生理的欲求。人は大小こそあれ、これらを表情や瞳の動きにあらわす。これを察知し、指令されずに動くロボットは要介護者やその支援者にとって心強いパートナー。その開発を次世代型IT人材が可能にするだろう」と論は広がる。そのような“次世代型IT人材”の育成をめざすのが本学・情報学部であるなら、2009年度に予定されている「1学科4コース制」への再編もそこにつながっていくのだろうか。

場 を“SONYからSOJOへ”移し
蒔いた“創”のタネが発芽するのも
遠い将来のことではないだろう

「ソフトウェア、メディア、エレクトロニクス、ロボティクスの4コースを比較的自由に横断しながら学ぶことで、学生らは“次世代型IT人材”にふさわしいスキルを培っていくだろう。しかし新技術の開発においては、さらなる能力も必要になってくる。それは開発をめざす技術が人々や社会に“なにをもたらすのか”をイメージする能力。私がソニーで有機ELディスプレイを初めて見た時にイメージしたのは“紙のように薄いテレビがもたらす居住空間の広がり”であり“太陽光の影響を受けにくいディスプレイがもたらす情報受信の場の広がり”だった。それがイメージできたから、20億円の初期・研究投資を独断で即決できた。これを念頭に私たちは今、情報学部と芸術学部のコラボレーションを積極的に進めようとしている。アーティストやデザイナーを志す芸術学部生たちから受ける刺激。それがもたらすイマジネーションの広がり。これらが技術教育に加わってはいじめて、私は“真の次世代型IT人材”が輩出できると考えているのです」。ロボットを通じて、再編が予定化されている情報学部の教育を通じて、情報技術の未来を示唆された中村末廣副学長。場を“SONYからSOJOへ”移し、新たに蒔かれた“創”のタネが芽吹き、根を張り、大樹をめざして育っていく日も、遠い将来のことではないだろう。

●中村末廣副学長が独断で20億円を投じ、社内でも秘密裏に進めさせた有機ELディスプレイの開発秘話、「中村末廣が蒔いた“創”のタネ」は283ページから始まっており、この日経ビジネス人文庫・勝見明著「不可能を可能にした商品開発プロジェクト〜ソニーの遺伝子」の総括、事業再生に関する項へと続く。



Message to High School Students

「あんな夢・こんな夢」を叶えるのは
どこかの“不思議なポケット”ではなく
自分自身だと思ってほしい

崇城大学 副学長
中村 末廣 Suehiro NAKAMURA

●約30年前、今の高校生の保護者の多くが高校生だった頃、世の中に携帯電話はありませんでした。その約10年後、登場したのは重く大きく、かつ大卒初任給に等しいほど高価なショルダータイプの携帯電話。使っているのは限られた人だけでした。それから10年、携帯電話はケータイとなり、今ではほとんどの高校生のポケットに入っています。これを可能にしたのがITの革新ですが、その原動力となったのは“人々の豊かさを求める心”であり、エンジニアたちの知的好奇心。某アニメの主題歌ではないですが「こんなこといいな・できたらいいな」という気持ちが、社会を変える新たなITを生み出すのです。崇城大の情報学部は2009年度、1学科4コースに再編される予定ですが、私が学んでほしいと考えるのは、歌の続きにある「あんな夢・こんな夢」をどこかの“不思議なポケット”ではなく、自分の手で叶えようとする人に他なりません。

●写真はこの取材の1週間後に旅立たれた、かつての赴任地・英国から南欧へと渡る約2週間の行程を世界地図を前に説明される中村末廣副学長。英国では「SONY UK limited」時代の仲間と“大いに旧交を温める”とのこと。



The Information Technology of the Future
情報技術の未来
PART_II
情報学部・教員と学生に訊く
なぜITを学ぶの?
ですか...



音 声情報処理技術を核とした
ヒューマンインターフェイスの研究を進める
西宏之教授の研究室をまずは訪ねて

中村末廣副学長が場を“SONYからSOJOへ”移し、情報技術の未来をひらくため、新たに蒔かれた“創”のタネ。その萌芽を見つけに、まずは情報学部・西研究室を訪ねてみた。同研究室が取り組むのは、研究主幹である西宏之教授が専門とする音声情報処理技術を核としたヒューマンインターフェイス。その一端を卒業研究のテーマとし、同研究室に所属する情報学部4年次生の蘇鉄亮太くん（福岡県・大牟田高校出身）へ、西教授にフォローを願いつつ「なぜITを学ぶのか?」とダイレクトに問うてみよう。

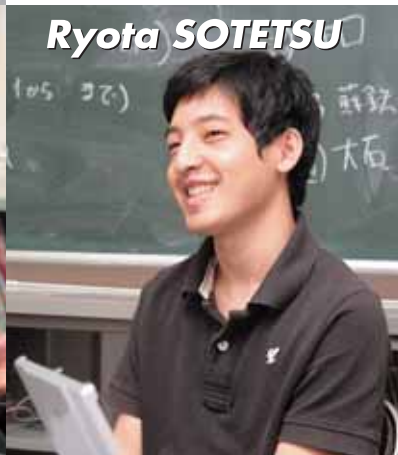


Hiroyuki NISHI

IT 人材の不足は8万人に達しているらしく
その現実を前にすれば「なぜITを学ぶのか」が
かなりの愚問だと思えないかと

「僕が進学先を検討していた当時は就職氷河期の真っ最中。しかし崇城大・情報学部の先生たちは“氷河は融けつつある”と言っていた。その言葉を信じ、本学でITを学んでいたら、さまざまなIT企業から研究室へ、求人が続々と届くようになってきた。その中から、自分のスキルが最も活かせると思ったソフトウェアの企画開発を行う会社を選んで志願。早々に内定をいただけたことこそ、僕がITを学んだ理由です」。このように述べた蘇鉄くんを、西教授は「団塊世代の定年退職等により、就職氷河期が融解したのは事実ですが」と前置きしつつ、次のようにフォローする。「工業大学を前身とする本学、その情報学部の強みはハードとソフトの両面から、高度な技術教育が行えることにあり、多くのIT企業がそこに注目している。現在、自動車や携帯電話をはじめ、ほとんどのメカの作動を担っているのは、ソフトウェアが書き込まれたICチップ。その書き換えや改良は常に行われており、同モデルの自動車や携帯電話であっても、組み込まれるICチップは出荷ロットごとに新しくなっている。そんなICチップの開発・改良に従事できるIT人材の不足は、一説によると8万人に達している。この現実を前にすれば“なぜITを学ぶのか?”が、かなりの愚問だと思えてきませんか(笑)」。社会一般、IT系というインターネット関連企業を思い浮かべるケースも少なくないが、あらゆる産業がITに立脚する今、その技術者養成をハードとソフトの双方向から行い得る本学・情報学部への期待は、高まるばかりと断言したい。

Ryota SOTETSU



カ オス理論の情報通信分野への応用や
デジタル回路設計分野の問題解決に取り組む
吉岡大三郎助教の研究室を次に訪ねて

次に訪れたのは、カオス理論を用いた疑似乱数の情報通信分野への応用をベースにした研究や、デジタル回路設計分野の問題解決に関する取り組みを進める吉岡大三郎助教と情報学部4年次生の山中寿子さん（熊本県・熊本信愛女学院高校出身）が所属する研究室。山中さんは3年次を修了した時点で卒業要件124単位を大幅に上回る159単位をすでに修得しており、「半導体メーカーへの就職も内々定な状況にある」とのこと。そんな彼女には「なぜ“それほど”ITを学ぶのか?」と訊いてみたい。



Message to High School Students



豊かな人間性を備えた
情(なさけ)報(しらせる)プロを
めざす学びに理系・文系はありません

崇城大学 情報学部 学部長
原尾 政輝 Masateru HARAO

●情報学の英語表記は“Information Science”であり、直訳すると“伝達科学”となります。しかし日本の先達らは“Information”を単に伝達と捉えず、そこに“情(なさけ)報(しらせる)”との思いを込めました。すなわち情報学とは、プログラミングやCG、ネットワークやロボティクス等々、対象がなんであろうとすべては「人と人」あるいは「心と心」を結ぶための技術に寄り立つ学問であるということです。そのような考えをもとにした技術教育を行うのが、本学・情報学部の特長といえるでしょう。また1学科4コースへの再編を2009年度に予定していますが、専門選択は2年次にするため、入学1年間は今以上に基礎がじっくり学べるようになります。そのため、高校時代の選択が文系であろうと理系であろうと、誰もがスムーズに学べるはず。豊かな人間性を備えた“情(なさけ)を報(しらせる)”プロをめざし、頑張っ

いつ でも・どこでも・かんたんに
誰もがITの恩恵を受けて暮らせる
人にやさしいユビキタス社会へ

「小さなケータイで“なぜ”これほど多くのことができるの?と思ったのが、大学で情報学を専攻しようと考えたきっかけでした。それで実際に学んでみたら知らないことばかり。知的好奇心が大いに刺激され“あれもこれも”と欲張っていたら、気づけば159単位も履修していたんです」。なぜ“それほど”ITを学ぶのか?との問いに対して、知的好奇心を要旨に答えた山中さんらしく、吉岡助教が取り組む通信分野についても「興味津々」とのこと。これを受けて「糸電話から現在の光通信へ、有線通信の技術発展はめざましく、映画のダウンロードさえ素早い。その一方、無線通信はさほどの進化を示していない」と述べる吉岡助教は、次のように論を続ける。「無線通信技術の発展の先にあるのはケーブルで結ばれていない、いわば“初対面のメカとメカ”が対話する状況。それがなにももたらすのか、例えばケータイ。今や誰もが持ち歩いているわけで、ケータイからケータイへ電波をリレーすることが可能になれば基地局は不要になる。すると通信費は大幅に下り、独居高齢者を見守るシステムなどが低料金で導入できる。また、食品にICチップが付いており、情報を無線発信できるとしたら、庫内の食品の賞味期限を教えてくれる冷蔵庫がつくれる。そうすると、出先から買うべき食品をケータイ等でチェックできるようになる。これから、誰もが“いつでも・どこでも・かんたんに”ITの恩恵を受けて暮らせる、人にやさしいユビキタス社会を感じませんか」。そんな未来の一翼を担うべく、本学・情報学部学ぶ学生たちへエールをおくろう。

薬学部 薬学科 医療薬学講座
薬物治療学教室
●指導教員／松倉 誠 教授 [医学博士]
●専門分野／小児神経学 臨床薬理学
アンチセンス研究

さまざまな難病に対する 先進的な治療法の研究・開発をめざし 世界の研究者と共同実験を進行

学生にきく



薬学部 薬学科4年次生
新屋 圭一郎くん
鹿児島県・れいめい高校出身

現在の研究テーマは？

- 糖康楽という漢方処方について色々なことを調べています。糖康楽というのはインスリン分泌細胞に作用し、インスリンの分泌を増加させることにより、糖尿病に効果を示すと言われているのですが、まだまだマイナーな薬であり、詳しく解明されてはいません。
- 糖康楽はいくつかの生薬を配合した漢方処方であり、市販もされていますが、元となる生薬の配合比率は伝統的な漢方の考え方で調合されています。そこで僕たちはどのような配合比率が科学的に適切かを日々調べています。研究の成果によっては、糖尿病の代表的な薬にもなり得ると信じていますし、とてもやりがいのある研究だと思っています。
- これらの研究は一見、同じことの繰り返しのように思えるのですが、たまに新しい発見があったり、改善すべき点が見つかったり、実験の精度が上がっていくと、とてもうれしく感じます。
- また、松倉教授は糖康楽の研究以外にも、遺伝子の関係する病態について広く研究をされており、それらの研究はいずれも将来の医療に活かされるものだと思います。

研究室の雰囲気は？

- ゼミ生は皆が個性的で面白い人ばかり。とても明るい雰囲気の研究室です。とにかくイベントが大好きな研究室です。なにか理由をつくっては集まり、皆でワイワイやっています。

松倉教授はどんな先生？

- 明るくて面白い先生ですが、研究に行き詰っている時には的確な助言を与えてくださるなど、とても頼りにしています。ゼミ生も先生も底抜けに明るい人ばかり。賑やかさは学内トップクラスだと自負しています。

- 臨牀的には、こどもの発達を主にした小児神経が専門領域です。薬の研究は、抗てんかん薬の血中濃度モニタリングを30年程以前に始め、その後リュウマチ薬、喘息薬などを研究しました。
- また、20年以上前から遺伝子発現をコントロールするアンチセンスの研究を米国国立がん研究所ではじめました。今に至っても患者さんに使う薬としては一種類しか開発されておらず、さらなる研究が必要な領域です。
- さらに、さまざまな難病に対する先進的な治療法の研究・開発をめざして本学の藤井績准教授や伊藤薫助教と共に世界の研究者と共同実験を行っています。



松倉誠教授 この1年の主な活動

- 糖尿病の治療薬になる可能性のある海洋水産物（海藻類）由来の成分の研究を、中国からの留学生と一緒にしています。これは熊本県芦北町の中医クリニックと中国海洋大学との共同研究です。
- 細胞を使用した実験では既に、糖尿病で乏しくなるインスリンを膵臓細胞を刺激して分泌させることが分りました。この発見は英文雑誌に掲載され今後は、糖尿病モデルマウスでの実験をして、糖尿病の患者さんに使えるよう研究を続ける予定です。

情報学部
コンピュータシステムテクノロジー学科*
*2009年度より情報学科に改組予定
逸見研究室
●指導教員／逸見 次郎 教授 [博士(工学)]
●専門分野／電子工学

地球環境の保全・改善に大きく寄与できる 太陽光発電や小水力発電といった クリーンエネルギーを研究



Itsumi Laboratory

- 太陽光発電や小水力発電、および地球環境の出前授業に出かけています。その内容は車の屋根に(A)のように太陽電池を貼って、炎天下に駐車中の車内温度を下げるソーラークーラーや持ち運びができるポータブル型太陽光発電(B)、用水路を利用して水車を回して電気を作る小水力発電(C)についてが主です。
- 小学校4年生を対象にした環境とエネルギーに関する出前授業(D)では、太陽電池で動くグッズや太陽光発電システムを持って行きます。



逸見次郎教授 この1年の主な活動

- 昨年の1月には熊本県産学官技術交流会に参加して4年次生の4件の発表に付き合い、夏(9月)には沖縄へ出かけ、九州電気関係学会で院生と4年次生の4件の発表に行ってきました。10月には北海へ出かけ、院生の3件の発表(太陽エネルギー学会)に出かけ、ジンギスカン料理を食べしてきました。12月には福岡で行われた国際会議「PVSEC-17」での院生のポスターセッション発表に行ってきました。
- 今年の3月には熊本博物館主催「ソーラーカーで遊ぼう」イベントに参加し、子供と楽しく遊んできました。4月から5月にかけては小学校の出前授業に出かけ、遠くは沖縄まで行き、泡盛をごちそうになってきました。

学生にきく



大学院 修士課程
電気・電子工学専攻2年次生
伊藤 孝典 さん
山口県・南陽工業高校出身

現在の研究テーマは？

- 研究テーマは「サマーシーズンにおける駐車中の車内を快適にする太陽電池クーラーの開発」です。この研究が実用化されれば、地球環境の保全・改善に大きく寄与できると感じ、同時に誰も挑戦していないことでもあり「自分がこの研究を成功させたい!!」と思い、この研究テーマを選びました。
- 逸見教授はこの研究の他にも、マイクロ水力などのクリーンエネルギーの研究をされています。先生と一緒に今後の地球環境をいかによくなるか、守っていくかを常に意識して研究に取り組み、夢とやりがいを感じます。

研究室の雰囲気は？

- 当研究室の雰囲気はとても明るく、笑いが絶えません。研究室では何か少しでも祝いごとがあれば飲み会があり、先日の私の誕生日にはサプライズで誕生日会を開いてくれて、感動しました。

逸見教授はどんな先生？

- とても人間味がある先生だと思います。研究の面だけではなく、人として尊敬できる先生です。毎朝ランニングをされるなど、学生の私たちよりもエネルギーがすごいです。お酒の強さも研究室でトップです。そんな先生のおかげで就職も決まり、今は卒業研究に没頭しつつ、残された学生生活を楽しみたいと思っています。

逸見教授



中学校・高等学校教諭一種免許

崇城大では高校の工業・美術・情報・理科や
中学校の美術・理科の教員免許が取得できます

●教員免許とは中学校や高等学校などの教員になるために必要な免許。4年制大学を卒業して取得できる「一種免許」と、大学院を修了して取得できる「専修免許」があります。

<免許取得の必要条件>

●「一種免許」は大学を卒業し、学士の資格を得ること、卒業までに教科に関する科目、教職に関する科目、文部科学省が定める科目の単位を取得することが必要です。

●「専修免許」は一種免許取得もしくは一種免許取得条件を満たした上、修士課程を修了し学位を得ること、大学院修了までに教科に関する科目の単位を取得することが必要です。

※工業の免許を取得する場合、教職に関する科目の全部または一部を工業の教科に関する科目の単位で振替えることができます（当分の間の特例）。
※詳しくは2009大学案内の各学科紹介（学修スキーム）ページをご参照ください。

<本学で取得できる教員免許の種類および教科>

学 科	免許の種類及び教科
●機械工学科 ●エコデザイン学科 ●建築学科 ●宇宙航空システム工学科 ●美術学科 ●デザイン学科	高等学校教諭一種免許（工業） 高等学校教諭一種免許（美術） 中学校教諭一種免許（美術）
●電子情報ネットワーク学科 ●ソフトウェアサイエンス学科 ●コンピュータシステムテクノロジー学科 ※2009年度 入学生より情報学科（認定申請中） ●ナノサイエンス学科 ●応用微生物工学科 ●応用生命科学学科	高等学校教諭一種免許（情報） 高等学校教諭一種免許（工業） 高等学校教諭一種免許（理科） 中学校教諭一種免許（理科）

<本学の取り組み>

●教育実習を希望する学生を対象に、教員として活躍されている卒業生を講師に迎えた講演会を開催しています。また、採用試験を受ける学生には教職教養講座を開いて実力アップを図っています。教務課では、教員免許一括申請業務を行っており、卒業当日に教員免許を手にする事ができます（ただし、事前に申し込みが必要です）。

●なお、本学出身の教員は現在、確認できている人だけで約250名おられます。



voice
大学院 博士課程
応用生命科学専攻1年次生
行原 真美子さん
広島県・広陵高校出身

●修士課程時、九州ルーテル学院高校で理科の授業を週6時間担当する非常勤講師職に就いていました。元気なクラスで楽しかったのですが、どのように教えれば生徒に伝わるかを考えることが大変でした。でも、勉強のことで生徒が自分を頼って来てくれたことが何度かあり、教員であることを自覚するなど、とても良い経験になりました。

環境の測定・分析を行う証明事業に必須な 国家資格の取得につながる講義を開講

環境計量士

●環境計量士とは事業所や工場などの騒音・振動レベル、大気汚染や水質汚濁など、環境問題に対する測定・分析を行う証明事業に必須な経済産業省所管の国家資格。この資格には次の2通りの区分があります。

●1) 濃度関係：大気や水、土壤に含まれる汚染物質の測定・分析を行う資格。

●2) 騒音・振動関係：騒音や振動被害に関する測定・分析を行う資格。

●この資格を取得するにはそれぞれの国家試験に合格するか、計量研修センター（独立行政法人・産業技術総合研究所）が行う教習課程を修了し、計量行政審議会の認定を受けるという2通りの方法があります。但し、どちらの方法でも登録手続きの条件として、試験合格者の場合1年、計量行政審議会認定の場合2年と、定められた実務経験が必要です。

<本学の取り組み>

●工学部ナノサイエンス学科では、この資格取得に関連した講義「環境計測学」を3年次に開講。環境計量士（濃度関係）に必要な環境関係法規と化学分析概論についての入門講義を行っています。また工学部エコデザイン学科では、この資格の取得につながる騒音・振動に関連した講義「地盤調査と計測」を3年次に開講しています。



THE HISTORY OF A PROFESSOR

教授に歴史あり……シリーズ⑥

大学院進学時は半導体の研究をめざすが
配属は第2希望だった情報系研究室となり
それが今日までの歩みにつながった



高校時代 女子がいるクラスが とても羨ましかった

●バンカラの気風が残っていた時代です。丸刈り下駄履きで登校していたのを覚えています。当時の熊本高校に女子は少なく、3年間を通じて我がクラスは男子のみ。女子がいるクラスが羨ましかった（笑）。

●同校の校風は自由。文化祭や体育祭、水泳大会は生徒主導で大いに盛り上がりました。当時はテレビもそれほど普及しておらず、映画館のオーナーを親に持つ友人を見つけ、よく映画を見に行きました。今も年に一度は同窓会を開き、旧交を温めています。

大学時代 授業や実験が厳しく 設計製図では徹夜も常識

●数学が少し得意だったこともあり、九州工業大学の電気工学科に入学しました。当時は「いざなぎ景気」と呼ばれる高度経済成長期。高級技術者の育成が強く叫ばれていた時代でした。政府は特別奨学金制度を設けており、そのおかげで比較的、経済的に恵まれた4年間を過ごすことができました。当時の北九州市は八幡製鉄を中心とする鉄鋼の街。工場から立ち昇る7



九州工業大学で卒業研究に取り組んでいた頃の原尾教授（友人と）

色の煙が繁栄の象徴としてもてはやされていました。大学の授業は厳しく、国立大の内でも留年率が高いので有名でした。徹夜が常識だった設計製図、レポートが大変だった実験のなどを今も思い出します。

大学院で 通信理論の勉強をすることで 情報の分野に漠然とした興味を

●大学4年次の卒業研究はPCM通信方式について。真空管を用いて回路を組みながら、当時普及し始めた半導体に興味をもちました。また、通信理論を勉強している時に「Shannon」の情報理論や「Wiener」のサイバネティクスのことを知りました。漠然とその分野にも興味をもつようになりましたが、全体像を理解しているわけではありませんでした。東北大学の大学院に



東北大学・大学院生だった頃の原尾教授

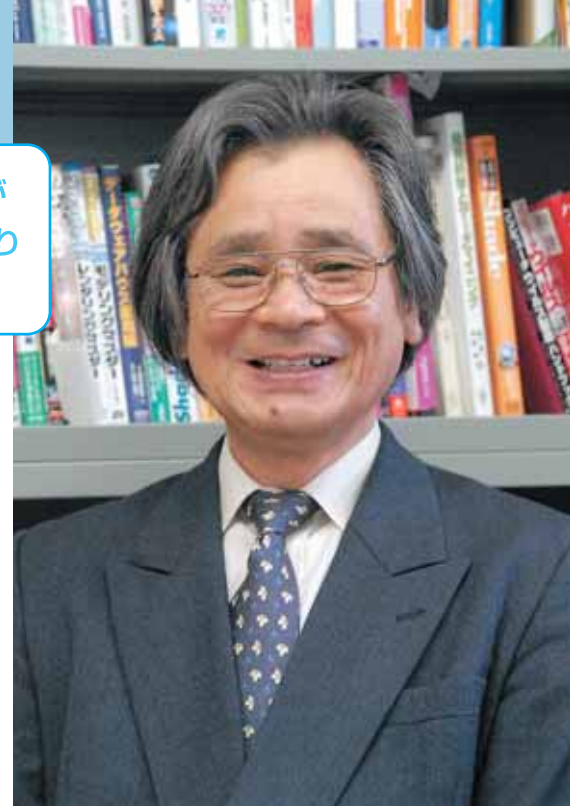
進学するとき、初めは半導体の研究室を志望しましたが希望者が多く、配属は第2希望だった情報関係の研究室になりました。これが40数年間も続く現在の研究の始まりになるとは……思ってもいませんでした。

現在 研究分野が急速に進歩する今こそ 学生諸君と一緒に頑張りたい

●「計算機を用いて人間のように知的な機能が創造できるか」という問題に取り組んでいます。人間と人工知能との関係は鳥と飛行機の関係のようなものですが、人工知能は人間の知的能力を補助し、より創造的な仕事に専念できるようにしてくれます。現在、学部長になってゆっくり論文を読む時間が減ってしまいました。急速に進歩する研究分野においてけぼりを食わないよう、学生諸君と一緒に頑張りたいと思っています。また、ボケないように（笑）たまには趣味のテニスも復活させたいと思う昨今です。

学生へ 役立つという観点だけでなく 哲学や語学など広く学ぼう

●大学院生だった頃、とてもお世話になった先輩がいました。その先輩にお礼を言ったところ、「同じことを後輩にしてあげなさい」と言われたことが今でも心に残っています。このような考えで周りの人と接していけば、素晴らしく信頼しあった友人関係が築けるのではないのでしょうか。また、人生ではいろいろな局面で複数の選択肢から、どれを選択するかを迫られます。学問をすることはその選択を正しくするためであると思っています。すぐに役に立つという観点だけではなく、哲学や語学、自然科学等々、広く学んでください。



情報学部長／情報学部 ソフトウェアサイエンス学科
原尾 政輝 教授（工学博士）

プロフィール ●1944年1月26日、熊本県生まれの水がめ座で血液型はO型。熊本高校から九州工業大学に進み、東北大学・大学院工学研究科（電気及び通信専攻）を修了。東北大学電気通信研究所助手、助教授、山形大学工学部情報工学科教授、九州工業大学情報工学部知能情報工学科教授を経て2007年より本学・情報学部ソフトウェアサイエンス学科教授。2008年には同学部長に就任。専門分野は知能情報学。

新任教員

この春、13名の先生方が着任されました。
新たな出会いと学びに期待を込めて、
まずは「こんにちは」から始めよう。

●所属 ●職位 ●専門 ●メッセージ

工 学 部



柿塚 純男

●総合教育 ●教授
●教育学、学校制度
●一人でも多くの仲間を知り、人間力を高めていきましょう。



新海 征治

●ナノサイエンス学科 ●教授
●超分子化学、分子認識、機能性高分子
●正解を「憶える」よりも、解決法を自ら「考える」事こそ学問の真髄。



横堀 肇

●建築学科 ●教授
●都市計画、再開発、国際協力
●社会での活用や仕事での応用を常に頭に置き、問題意識をもって学習してください。



石黒 之武久

●総合教育 ●准教授
●保健体育、スポーツ心理学
●「和して同ぜず」の精神で夢の実現をめざしてください。応援します。



水城 圭司

●ナノサイエンス学科 ●助教
●生体機能分子化学、生体分析化学
●人との出会いを大切に、これらの時間を有意義に過ごしてください。

情報学部



木村 義政

●コンピュータシステムテクノロジー学科 ●教授
●文字認識、神経回路
●勉強でも趣味でも、夢中になって打ち込めるものを見つけてください。



尾崎 昭剛

●ソフトウェアサイエンス学科 ●助教
●情報工学
●私もまだまだ学ぶ事が多い身です。一緒に勉強していきましょう！



塩谷 捨明

●応用生命科学学科 ●教授
●生物学
●大学時代に学び経験したことはいつまでも忘れません。基礎学力をつけ、いろんな経験をしましょう。



岡 拓二

●応用微生物工学科 ●助教
●応用微生物学、糖鎖生物学、糖鎖工学
●情報や知識も大切ですが、将来の知恵となる想像・創造力を磨き上げよう。



松永 隼人

●応用生命科学学科 ●助教
●機能生物化学、分子神経生物学
●情報や知識も大切ですが、将来の知恵となる想像・創造力を磨き上げよう。

薬 学 部



首藤 恵子

●薬学科 ●助手
●分子生物学
●自分の可能性を模索しながら大いに学び、大学生活を充実したものにして。



中村 仁美

●薬学科 ●助手
●蛋白質工学
●共に崇城大学で成長しましょう。よろしくお願いします。



緒方 登

●薬学科 ●技術員
●薬用植物の管理及び栽培
●植物は気持ちを落ち付けます。遊びに来てください。

工学部・ナノサイエンス学科が 近未来新素材研究会 第7回講演会を開催



産学が連携し次世代の機能物質を開発することを目的として崇城大学と琉球大学との間に発足した「近未来新素材研究会」（会長：柘植乙彦崇城大学名誉教授（九州大学名誉教授））の第7回講演会が、2007年11月2日に九州大学筑紫キャンパスにて開催された。ナノサイエンス学科から八田泰三教授、池永和敏准教授、田丸俊一助教、八田研究室の学生18名、および応用生命科学科から林修平助教が出席した。講演は4件行われ、本学からは池永准教授が「マイクロ波を利用したペットボトルの近未来リサイクル法」と題して講演した。講演会には会長の柘植名誉教授及び加藤昭夫前崇城大学教授（九州大学名誉教授）をはじめ、多数の産学関係者および学生が参加して活発な討論が交わされた。次回も九州大学筑紫キャンパスで開催する予定。

生物生命学部・応用生命科学科 上岡教授と松本教授が日本で初めての ナノメディシンに関する専門書に分担執筆

生物生命学部・応用生命科学科の上岡龍一教授と松本陽子教授が、最近注目されているナノメディシンの日本で初めての専門書「ナノメディシン（ナノテクの医療応用）」（宇理須恒雄編・2008年2月オーム社発行）に分担執筆した。本書は昨年、愛知県岡崎市の分子科学研究所で開催された第1回ナノメディシン国際会議に招待された国内の最先端の研究者によって執筆されている。上岡教授もその招待講演者の一人であり、松本教授とともに本学で開発、臨床応用を進めているハイブリッドリボソームによるがん治療について執筆している。同書には崇城大学の名前も掲載されており、今後の世界的展開が期待される。



薬学部・微生物学研究室が 薬系国際誌に注目の論文を発表

薬学部・微生物学研究室が2006年9月「Drug Discovery Today」誌（出版社：Elsevier）vol.11 / P.812-818 に発表した論文「Exploiting permeability and retention (EPR)-effect for tumor targeting」～邦訳：薬剤の腫瘍標的化を目指した血管透過性と蓄積（EPR）効果の活用～が同誌の2005年から2006年の137報のうち、2007年の被引用数でトップ3に入った。同誌のインパクトファクターは7.7。同研究室・前田浩教授らの「EPR-効果」に関する2007年における引用回数は、直接・間接あわせて1600件以上と推算される。
*学術雑誌を対象として、その分野における雑誌の影響度を測る指標。



情報学部・電子情報ネットワーク学科 渡邊教授が熊本地方裁判所の 専門訴訟事件等の特殊事件の為の研究会で講演

情報学部・電子情報ネットワーク学科の渡邊祥郎教授が去る3月18日、熊本地方裁判所「専門訴訟事件等の特殊事件の為の研究会」において「コンピュータ・ソフトウェア開発における信頼性向上の為の取引慣行及びモデル契約書について」という特別講演を行った。これはコンピュータ・ソフトウェア開発に関わる訴訟が最近頻発してきたことによるものであり、熊本地方裁判所長を含む裁判官、書記官など約40名が参加。約1時間半の講演後は30分程の活発な質疑応答が行われた。



Photo Scrap*



4.5
入学式



4.7
新入生
オリエンテーション



4.8~22
新入生特別研修



5.1
学生総会



5.14・15
美井展覧



5.15
留学生歓迎会



5.17・18
遠歩会

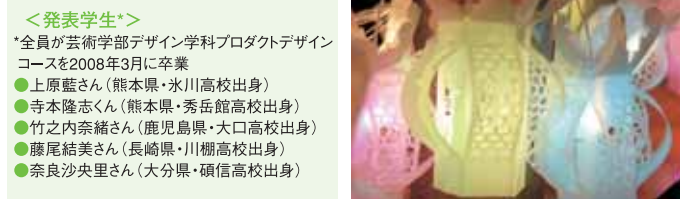
芸術学部・美術学科の学生が主になり 坂東玉三郎公演「藤娘」の舞台背景を制作

4月30日、熊本城本丸御殿落成記念「坂東玉三郎特別舞台公演」（TKU主催）の舞台背景となる“藤”を、美術学科および大学院芸術研究科で日本画を専攻する学生が主になって制作。日頃の修練の成果を熊本市民をはじめとする多くの観客の前に披露した。



芸術学部・デザイン学科の本間研究室が 「山鹿まちづくり活動報告会」を開催

2月19日、山鹿市八千代座において、芸術学部デザイン学科4年次生（当時）の本間研究室メンバーが「山鹿まちづくり活動報告会」を行った。この活動は芸術学部が開設された2000年、山鹿温泉観光協会女将会（よへほの会）から「日本一の紙あかりのまちづくり」への協力要請により始まったもの。報告会では、これまでの活動概要を本間康夫教授が説明し、続いて同研究室の学生5名が、山鹿市地域における新たな産業や雇用の創出を目的とした、「山鹿灯籠」や「山鹿傘」、「来民うちわ」に代表される山鹿の伝統工芸、豊前街道の古い街並の調査研究を通して開発した「手持ち灯り」や「照明器具」などのデザイン提案を行った。なお「手持ち灯り」は、昨年暮れに山鹿市地域振興公社へ技術移転し、既に商品化が実現している。



建築設計競技や難関資格試験など がんばる学生が続々!!

地元・熊本での建築設計競技で入選を果たした学生、難関資格のひとつとされる危険物取扱者（甲種）試験に合格した学生、がんばる崇城大生をご紹介します。

- <まもとアートポリス設計競技2007モクバンR2において
作品「ゆらゆらゆれるモクバン」で入選した学生たち**
- 田尻昭久さん／大学院工学研究科・修士課程2年次生（鹿児島県・加世田高校出身）
 - 橋本大史さん／大学院工学研究科・修士課程1年次生（佐賀県・佐賀工業高校出身）
 - 村田圭一郎くん／工学部・建築学科2007年度卒業生（熊本県・玉名高校出身）
- <まもと木造住宅アートポリスデザインコンペにおいて
作品「木の移ろいがある家」で優秀賞に輝いた学生**
- 田尻昭久さん／大学院工学研究科・修士課程2年次生（鹿児島県・加世田高校出身）
- 平成19年度危険物取扱者（甲種）試験に受かり同資格を取得した学生**
- 猿渡直明くん／生物生命学部・応用生命科学科4年次生（熊本県・荒尾高校出身）

voice

大学院 芸術研究科 博士課程1年次生
徳留 永子さん
鹿児島県・松陽高校出身



- 舞台背景の制作をお手伝いさせていただきました。当日は長唄「君が代松竹梅」の後に全体の照明が消え、暗闇の中、幕が藤に変わるとすぐ、照明と共に「藤娘」が始まる演出。驚きと共に大きな感動を得ました。
- 制作においては絵画と舞台芸術のちがいが、ひとつの作品を一定のレベルを保ちつつ大人数で描く難しさを感じました。また、ひとつの舞台に多くの人が関わり、組み立てていく社会の仕事を実際に垣間見たことをはじめ、熊本や地域社会に対する玉三郎氏の広い見識に触れるなど、とても勉強になりました。
- 日本画専攻だけではなく、洋画やデザインを専攻する学生たちも加わり、皆で協力して制作したことから大きな充実感を得ました。これらすべてが貴重な経験であり、今回このような仕事を担わせていただいたことを学生一同、心から感謝しています。

ロボット研究会がロボットランサー 競技会で堂々の決勝進出!!

「日本機械学会ロボットグランプリ・ロボットランサー部門」が3月9日、日本科学未来館（東京都）で開催された。ロボットランサー競技とは、バッテリーとコンピュータを搭載した自律型で槍を装備した槍騎兵（ランサー）ロボットによる競技。長円周状のコースラインを30秒（予選）あるいは60秒（決勝）周回し、コースラインの左右に設置した複数の標的をどれだけ正確に、かつ数多く突くことができるかを競うもの。崇城大学ロボット研究会からは2機のマシンが出場。うち1機（Ulysses mark2）が、計64機出場の予選を通過。決勝に進んだ14機のマシンの中で6位の立派な成績を残すことができた。ノイズの影響をクリアするなど、マシンの走行性能を向上させたことが良い結果につながった。

<出場学生>

- 鬼塚昇くん（写真）／情報学部・電子情報ネットワーク学科4年次生（熊本県・八代工業高校出身）
※決勝進出「Ulysses mark2」制作者
- 高橋宏樹くん／工学部・宇宙航空システム工学科4年次生（栃木県・大田原高校出身）
- 塚本智也くん／工学部・機械工学科3年次生（熊本県・御船高校出身）



本学初の快挙!! 在学生が 自家用飛行機ライセンスを取得



佐藤寛信さん（大学院宇宙航空システム工学専攻修士2007年度修了／大分県・大分舞鶴高校出身）が3月3日から5日の3日間に行われた自家用飛行機操縦士ライセンスを受験、見事に合格を果たした。その奮闘について、指導にあたった廣中俊生・航空実機運航本部長は次のように述べる。

彼がプロ・パイロットとして 飛び立つ日に向かってエールを贈ろう

航空実機運航本部長
廣中 俊生

voice

- 彼は大変な頑張り屋で、学科プロジェクトの「鳥人間コンテスト」人力飛行機部門のパイロットとして、過酷な訓練に耐え、本学初参加時に374.8mのフライト（7位）を行う快挙を成し遂げた。この折りの頑張りを知っている私としては、今回、彼が自家用操縦士のライセンスを取得したことにはさほどの驚きは感じなかった。在学中の取得は本学初のことではあるが、卒研室で3年次から修士修了まで共に過ごした私は、自然かつ当然の結果だと考えている。今後、佐藤君がさらに上位の事業用操縦士や計器飛行のライセンスを取得し、本物のパイロットとして飛び立っていく日を楽しみに、彼にエールを贈りたい。「輝け、煌めけ、佐藤君!」

SOJO as it is

学生会館の2・3階に 学生支援センターを開設

●本学では4月23日に「学生支援センター」をオープンしました。このセンターは、本学に入学して来た学生の皆さんが、当初の目標を達成して卒業できるように全面的に支援することを目的とし設置されました。学習支援や生活支援、トラブル解決支援やカウンセリングなど、いろいろな相談に応じます。場所は学生会館（中山義崇記念図書館と学生食堂の間にある棟）の2階と3階。相談内容は堅く秘密を守ります。気軽に訪ねてください。なお、当センターでは保護者の方々のご質問やご相談も受け付けています。詳しくは本学ホームページをご覧ください（<http://www.sojo-u.ac.jp/> 崇城大学ホームページ→キャンパスライフ→学生支援センター）。

Support Programs

学習支援

- 語学力をつけたい
- 履修の仕方や授業の内容がわからない
- TOEICに挑戦したい
- レポートの書き方に自信がない
- 資格を取得したい（など）

生活支援

- 大学生活でわからないことを聞きたい
- 目標がわからず生活に不安を感じる
- トラブルを抱えて困っている
- こころの悩みや漠然とした不安がある（など）



学生支援センター概要

- 所在地／学生会館（中山義崇記念図書館と学生食堂の間にある棟）2・3階
- 受付時間／9:00～17:00／月～金（休日を除く）
※夏期休業・春期休業期間については現在協議中
※受付場所は学生会館2階

<相談内容>

- 学習相談（学生会館2階）／時間割表により相談員が待機し、個別指導やグループ指導を行います。科目は英語、数学、物理です。また、レポートや論文の書き方、英会話などの講習会も実施します。
- 学生相談（学生会館2階）／時間割表により相談員が待機しています。薬学部についてはph343室（岡崎祥子助教）、ph222室（緒方郁子助教）で対応します。
- メンタルヘルス相談（学生会館3階・芸術学部棟A205室）／自分の性格や友人関係、悩んでいることなどについてカウンセラーが対応します（プライバシーは堅く守ります）。学生会館3階での相談は月・水・木（11時～17時）、薬学部学生も対象とする芸術学部棟A205室での相談は火・木（13時～17時）と金（14時～18時）です。
- 就職支援（本館附属棟1階）／専門員による就職相談を火（13時～16時）と木・金（15時～18時）に行います。この他の時間は就職課員が対応します。
- 健康支援（本館1階保健室）／看護職員が対応します。嘱託医師による健康相談も受けられます（毎月第3金曜日の14時～16時30分）。

message

学生支援センター長
厚山 健次



- 学生支援センターは、崇城大学で学ぶ皆さんの学園生活が円滑に、かつ充実したものになるように支援していきます。当センターは、本学に在籍しているすべての学生が大学に適応し、学ぶことの楽しさが実感できるように支援します。そして、皆さんが有意義な大学生活を終え、次代の日本を担う有為な社会人として巣立っていくことを願っています。
- 具体的には、学生の皆さんの学習面をサポートする学習支援、生活面を支援する学生支援、トラブル解決支援、カウンセリングなどの支援体制を整えています。専門科目については、質問内容により、それぞれの専門学科の先生に連絡をとり、指導してもらいます。
- スタッフ一同が研修を重ね、共通理解をしながら支援体制を整えていますので、気軽に足を運んでください。個人情報部の部外流出については、厳格に守りますので安心して相談に来てください。

卒業生直撃
interview

この仕事を通じて熊本の財産である豊かな自然を守り
次の世代へしっかりと手渡したい

株式会社 同仁グローバル

●矢方 研志さん

1990年3月 工学部・工業化学科(現ナノサイエンス学科)卒業／1992年3月 大学院修士課程・応用化学専攻修了／熊本県・小国高校出身

現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●大学院修士課程を修了後に地場企業である(株)同仁化学研究所に入社し、研究用試薬の生産・研究・開発、マーケティングの各現場を経験しました。当社の製品は、国内はもとより海外の大学や医療機関、研究所や工場などの最先端の現場で使用されています。もしかすると皆さんの近くにも「Dojindo」のロゴの入った試薬があるかもしれません。

●現在は、グループ企業である(株)同仁グローバルに勤務しています。環境分析(水質・大気・土壌など)を主に、企業から依頼される科学分析などを行っている会社です。その中で私は、分析やその評価を行う技術スタッフの取りまとめを行っています。

学生時代の思い出を教えてください

●学部1年次のとき、学園祭の出し物として、FRP製の船を作ったことですね。船が水に浮かんだのを目の当りにした時、なんだか化学を身近に感じた記憶があります。

大学時代に学んだことが今どのように活かされていますか

●教授から教えをいただいた「物事には全て理由がある」という言葉です。今でも新入社員教育において、その言葉を使っています。液体と固体を分別するためにろ過という操作を行います、その際に使う紙の折り方を題材にして、新入社員にその事を説いています。また、成功するにも、失敗する

にも、そこに辿り着くまでには何らかの理由があることを認識し、その理由を考えれば、そこに辿り着いた必然性に気づくことができていると思っています。いろんな意味で社会生活における考え方の基礎となっていることを実感しています。

崇城大に学ぶ後輩たちへ
アドバイスやメッセージをお願いします

●ありきたりですが、真の友人をつくってほしいですね。人脈形成において、損得抜きで純粋に付き合えるのは学生時代の特権ですから。私は社会人となって16年が経ちますが、学生時代の友人たちに、今でも多くの刺激を受け、また助けられ支えられています。

●それと現代社会では、人類と地球環境の共存において、今まで学んだ知識と、その知識を使う者のモラルが重要となります。大学生活では、知識を身につけることは当然として、多くの人と出会うことで人格を磨き、モラルある社会人となるための準備に全力を尽くしてほしいですね。

将来の夢を教えてください

●熊本の財産である豊かな自然を、今の仕事を通して守り続け、次の世代に手渡すことですかね……ちょっとかっこよすぎますか(笑)。

卒業生直撃
interview

今なお未知数的なウイルス・微生物類における
生物学的分析の第一人者をめざして

東和環境科学株式会社

●原 弘之さん

1997年3月 生物生命学部・応用微生物工学科卒業／1999年3月 広島大学大学院修士課程・先端物質科学研究科修了(兵庫県・川西北稜高校出身)

現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●現在の勤務先は東和環境科学株式会社です。当社は総合環境コンサルティング会社としての業務を行っています。主に私は、計量証明事業所の登録部門で様々な環境の計測・分析、バイオテクノロジー技術を活用した研究開発を行い、環境に対する評価・マネジメントおよび研究開発に従事しています。

学生時代の思い出を教えてください

●卒業研究で小川研究室(現・松岡研究室)に配属され、教授・助教授そして研究室のみんなで教授宅を訪問し、教授の手料理を食べて騒いだことなどでしょうか(笑)。また、バドミントン部に所属し、4年間で九州全域を征したことでしょ(電子情報ネットワーク学科の東先生にはとてもお世話になりました)。

大学時代に学んだ事が今どのように活かされていますか

●応用微生物学や分析化学、および分子遺伝学を学びました。これらのすべてが、環境保全という観点から取り組むウイルス・微生物類の同定試験・分析をはじめ、あらゆる環境における理化学分析(飲料水や工場排水など

の分析)の業務に活かされています。

崇城大に学ぶ後輩たちへ
アドバイスやメッセージをお願いします

●数多くの応用微生物工学科・卒業生が様々な場で活躍しています。大学時代でしか味わえない時間を大切にし、自分の将来像を見据えて勉学に励んでください。大学で学んだことは、どこかで必ず活かされます。大学生活を大いに楽しみ、多くの経験をし、知識を吸収してください。

将来の夢を教えてください

●様々な環境においてウイルス・微生物類の生物学的分析は今なお未知数です。特に人に害を与えるウイルス・微生物は無数に存在し、様々な研究者が研究開発に取り組んでいます。また化学分析においても、様々な物質について検討がなされ、新規検出法の開発なども進められています。そういった分野での第一人者になることでしょう。



※右から2番目が原さん

INTERNATIONAL
EXCHANGES

国際交流だより

フランス・バイオ産業大学大学院からの留学生
エリック・ペロさんが「黒米を用いた酒」について研究

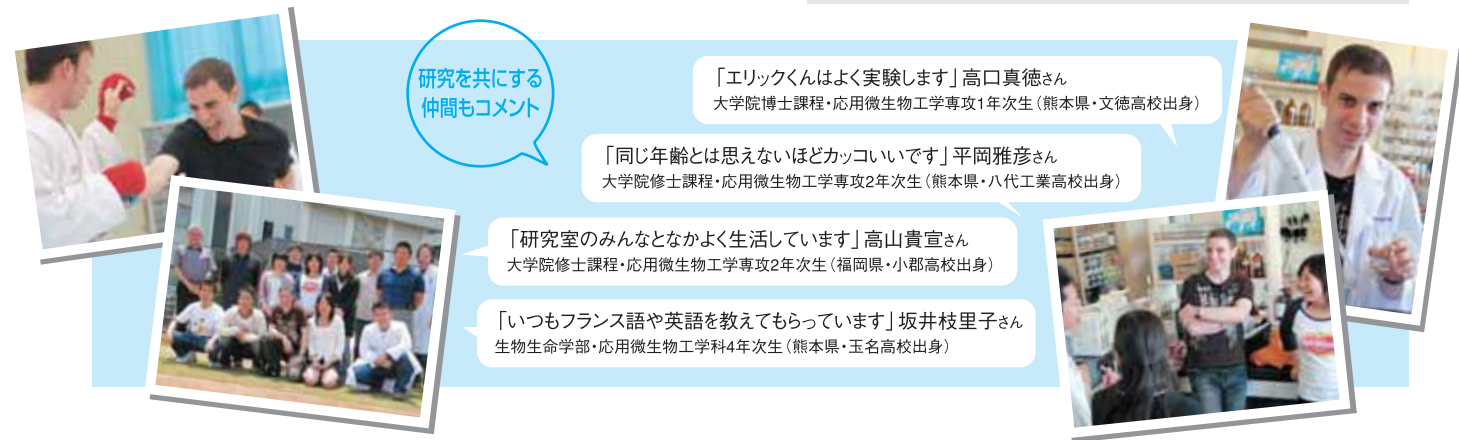
今年の2月、本学は大学間交流協定締結しているフランス・パリ北部のセルジー・ポントワーズ市にあるバイオ産業大学大学院より、留学生エリック・ペロさんを受け入れた。エリックさんは10月までの9カ月間、生物生命学部・応用微生物工学科の寺本研究室に所属し「黒米を用いた酒」についての研究を行う。

voice

フランス・バイオ産業大学
大学院からの留学生
エリック・ペロさん



●博士課程1年次生の高口真徳さんと実験をしています。崇城大では空手やバドミントンの練習もしています。みな熱心です。阿蘇や福岡に旅行に行き、楽しい思い出ができました。フランス語のイブ先生と楽しい花見をしました。



研究を共にする
仲間もコメント

「エリックくんはよく実験します」高口真徳さん
大学院博士課程・応用微生物工学専攻1年次生(熊本県・文徳高校出身)

「同じ年齢とは思えないほどカッコいいです」平岡雅彦さん
大学院修士課程・応用微生物工学専攻2年次生(熊本県・八代工業高校出身)

「研究室のみんなとなかよく生活しています」高山貴宣さん
大学院修士課程・応用微生物工学専攻2年次生(福岡県・小郡高校出身)

「いつもフランス語や英語を教えてもらっています」坂井枝里子さん
生物生命学部・応用微生物工学科4年次生(熊本県・玉名高校出身)

CLUBS' ACTIVITY

学業やバイトの合間のストレス解消に
テコンドーやろうぜ!!

●テコンドーってなに?と思ったあなた!! テコンドーは足技を主体に胴や頭を蹴ってポイントをとって戦うスポーツ感覚の武道です。
●部では毎週、月水金の4時半から楽しく、仲良く、自分なりの強さを見つけるために練習しています。部員は現在20人ほど。男女関係なく、わきあいあいとした感じの私たちですが、一度練習を始めれば上手下手に関係なく真剣に練習します。部員のほとんどが大学から始めた人ばかりです。仲間づくりはもちろん、学業やバイトの合間のストレス解消にピッタリの部活です。ぜひ見に来てください!!



主将
生物生命学部・応用微生物工学科4年次生
熊本 純くん
佐賀県・東松浦高校出身

テコンドー部



コンピュータ研究部

部長
情報学部・ソフトウェアサイエンス学科3年次生
原田 佳祐くん
福岡県・祐誠高校出身

社会で活躍されているOBの活動参加も多く
その指導やふれあいはとても有意義です

●私たちコンピュータ研究部ではCGやFLASH、DTM、プログラムなどで作品をつくって年に2回、美井展と井芹祭で展示・発表を行っています。その他の学内行事にも積極的に参加しています。それ以外にも春には花見、夏には合宿といった行事もサークル内で行っています。
●サークル内はとてもアットホームな雰囲気、同学年の部員はもちろん、先輩後輩も仲が良く、先輩と後輩という関係より、友人関係というほうが近いような気もします。
●その一方、上下関係におけるマナーや言葉づかい、社会常識などもきちんと先輩から後輩へ指導しています。OBの方の活動への参加も多く、社会で活躍されている先輩方からの指導は学生である自分たちにとって、大変ありがたいものです。
●これまで先輩たちが築き上げてきたコンピュータ研究部の伝統を守りつつ、より良いサークルになれるよう、部員一同がんばっていこうと思います。

岩原教授の退任により、先号で連載の幕を閉じた「キャンパスの自然ウォッチング」にかわり、教員らが今の自分の形成につながるまで“心に響いた”愛読書を紹介する新シリーズ「心響の一冊」が今号からスタートします。今後の連載についてもご期待ください。

自称「尋常じゃない乱読家」です。作家やジャンルを問わず、かなりの本を読んできましたが、ストーリーよりも文章そのものを楽しみつつ“行間を読む”のが私の読書スタイル。文章化されていない作者の主張や哲学を行間から読み解くことがおもしろいのです（この習性は研究論文の読解にも役立っています）。そんな私の“心響の一冊”はヘルマン・ヘッセの『知と愛』。ヘッセは瑞々しい文体による描写がとても美しく、好みの作家の一人なのですが、国語の教科書などに載っている『車輪の下』や『春の嵐』といった初期の青春小説より、私は晩年の大作であるこの『知と愛』に共感を覚えます。ストーリーは学者肌である「知の人」と芸術に生きる「愛の人」、二人の修道士が理性と感

ヘルマン・ヘッセ著
知と愛
写真の一冊は
高橋健二訳・新潮文庫版

心響の一冊

This is my favorite book Series@01

紹介書籍は図書館でもクローズアップ!!

古代から中世のインドの宗教（仏教・ヒンドウー教）美術史が専門ですが、分野の異なる書籍から新たな発見をすることも少なくありません。それもあり“心響の一冊”を選ぶのは難題でしたが、13年前に読んで以来、私が芸術を考える上で影響を受けた一冊『かたちの生命』を推挙することにしました。

“かたち”とは何かを説く『かたちの生命』に出会った私は今もその迷宮を彷徨う“旅人”です。

●芸術学部 美術学科 芸術文化コース／永田 郁 准教授

著者アンリ・フォションは20世紀フランスを代表する美術史家。私がこのフォションに最初に出会ったのは、やがて学ぶことになる名古屋大学・大学院の入試時。「アンリ・フォシ



性の葛藤に揺れ動く姿を軸に展開していき、想像以上に“人間臭い”心理やシーンが丹念に描かれています。この作品に私が始めて出会ったのは中学生の頃。以来、人生の転機を迎えるたび、幾度となく読み返してきましたが、その時々新鮮な感動を得ています。自分自身のアイデンティティを確認させてくれる、

人生の転機を迎えるたびに、幾度となく再読した『知と愛』は私にとって“原点回帰”の一冊です。

●生物生命学部 応用生命科学科／松永隼人 助教

まさに“マイ・フェイバリット”な一冊です。ちなみに今春、崇城大に赴任する前に再読しました。みなさんもぜひ、ご一読ください。



アンリ・フォション著
かたちの生命
写真の一冊は
阿部成樹訳・ちくま学芸文庫版

ンについて説明せよ」と設問されるまで、私は名前さえ知らなかったのです。当然ながら何も答えられず、それが悔しく（かつ好奇心が刺激され）、著作を読み漁るようになったのです。その中の一冊がこの本です。この『かたちの生命』の内容を説明するには紙幅が足りませんが、「空間・素材・精神における“かたち”を探り、“かたち”が生命をもち、芸術作品（建築・絵画・彫刻）に受肉する」と説いています。また、本書には芸術家の手仕事（メチエ）と技法を讃える「手を讃えて」も収録されています。そんな『かたちの生命』は、アートやデザインを志す芸術学部生はもちろん“ものづくり”に関わろうとする全学生に読んでもらいたい一冊。「ものを観察し、考えるとは何か」を気づかせてくれるでしょう。

LOCAL AREA COOPERATION

地域との連携

工学部・エコデザイン学科による「木山川水系の水質浄化プロジェクト」が始動

益城町を流れる木山川、特にその支流の布田川において近年汚染が激しく、流域住民は河川の汚染のみならず悪臭にも悩まされている。

●このプロジェクトは、本学との協力協定を結んでいる益城町からの要請を受け、エコデザイン学科が窓口となって今年1月から始まった。

●河川を浄化するには、まず流域全体の汚染の実態を把握することが必要である。そのためには他の専門分野の先生の協力が不可欠であり、工学部・ナノサイエンス学科の吉田烈教授に河川水の水質分析を、岩原正宜特任教授（応用微生物工学）に大腸菌の分析を依頼し、他学部との連携で調査に取り組んでいる。この調査は第1回が2月9日、第2回が3月1日、第3回が3月22日とすでに3回実施しており、今後1年にわたり行われる。その結果をふまえて本格的に河川浄化に取り組むことになり、完了までには3年程度はかかる長期的なプロジェクトである。



SPECIAL INFORMATION

高校生 未来づくりコンテスト

小論文大募集

私の環境宣言
“環境”を語ろう!
地球のため、
未来のために

- 募集期間／2008年9月1日～30日（必着）
- 募集内容／テーマは「私の環境宣言～“環境”を語ろう! 地球のため、未来のために」です。ただし環境と言ってもどこに視点を置くかでいろいろな見方や考え方ができます。例えば、食料の自給率があがると外国からの飛行機や船舶を利用した食料輸送のためのエネルギーが少なくてすみ、さらに進んで二酸化炭素の排出量削減にも結びつきます。新聞やインターネット（アサヒコム等）を参考にし、高校生ならではの視点で、日頃から関心のある環境問題について1,200字以内の小論文を作成してください。
- ※未発表でオリジナルの作品に限り。応募者は各自で題名をつけてください。
- ※文字数は1,000字以上1,200字以内とします。
- ※募集要項詳細は崇城大学・庶務課にて配布（九州全県および山口県の各高校にも配布します）

- 最優秀賞1点／賞状・副賞（奨学金5万円）・記念品を授与
- 優秀賞3点／賞状・副賞（奨学金3万円）・記念品を授与
- 審査員特別賞3点／賞状・副賞（奨学金2万円）・記念品を授与
- 奨励賞10点／賞状・記念品を授与

- 発表／2008年11月上旬（朝日新聞および崇城大学ホームページにて発表）
- 表彰式／2008年11月22日（崇城大学にて授賞式を実施します）
- 問い合わせ先／崇城大学庶務課「高校生 未来づくりコンテスト」担当
TEL.096-326-3238

崇城大学「専門学校」からのお知らせ

SOJO COLLEGE INFORMATION

保護者同伴のオープンキャンパスを実施します
もちろん生徒のみの参加も大歓迎です

2008 OPEN CAMPUS

<日程> 6月21日± 7月12日±26日± 8月5日±23日±

※全日10時30分から12時までの開催です。
※6月21日と7月26日は国家資格対策講座希望者へ国家試験の概要、本校の実績、対策講座の年間計画やカリキュラムを説明します。その後に国家試験の問題を対象とした授業を行います。
※7月12日・26日・8月23日は「保護者同伴」スタイルです。

<主な内容> ●学科内容・資格取得・就職等の説明 ●学校見学 ●体験学習

参加申し込みは下記メールやインターネットからでもOK!

崇城大学 専門学校

〒860-0806 熊本市花畑10番25号 TEL.096-323-1122
http://www.sojo-c.ac.jp/ info@sojo-c.ac.jp



参加者には
記念品進呈